



# 奈良県内経済情勢報告

(令和5年10月判断)

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和5年10月判断は、前回5年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

### 【各項目の判断】

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、客足の増加に伴い、食料品を中心に、持ち直しつつある。
- ・コンビニエンスストア販売は、インバウンドの増加などにより、引き続き人流が回復していることから、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドの増加などにより、医薬品などを中心に、好調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、物価上昇による消費者マインドの低下などにより、低調に推移している。
- ・家電大型専門店販売は、外出意欲の高まりによる家電以外の消費傾向がみられるものの、夏物家電が好調であり、総じて足踏みの状況である。
- ・乗用車新車登録届出台数は、普通車・小型車・軽自動車のいずれも前年を上回っている。
- ・観光動向は、インバウンドや国内観光客の増加などにより、回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 食料品を中心に好調で、来店客数は主要顧客層を中心に回復傾向にあり、足元では売上・来店客数ともに前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 生鮮食品のほか、繰り返し値上げされている冷凍食品も好調。また、来店客数はコロナ前の水準に回復している。(百貨店・スーパー)
- コロナ5類移行によるマインドの変化などにより、人出が増えており、都心部の店舗ではインバウンドを含め客数が増加傾向にある。(コンビニエンスストア)
- インバウンドは医薬品を中心に、国内観光客は夏物商品を中心にそれぞれ好調で、売上・客数ともに増加している。(ドラッグストア)
- 物価上昇の影響で消費者の購買意欲が低下していることや、日用品を中心にネット購入が増加していることから、売上・客数ともに前期を下回っている。(ホームセンター)
- 外出意欲の高まりから家電以外の消費が増加していると感じられ、物価上昇による影響から価格の安い型落ちの商品を求める傾向が続いている。一方で、エアコンなどの夏物家電は好調であった。(家電量販店)
- 消費者の購買意欲に落ち込みは見られず、継続する納車長期化を受けて早めに購入する傾向にある。(自動車販売店)
- 前年同期に「いまなら。キャンペーンプラス」が始まった反動減はなく、単価も客数も前年同期比プラスとなっており、7-9月期はオフシーズンであるものの健闘した。(宿泊)
- 「いまなら。キャンペーン2023」の終了や猛暑によるマイナスの影響があったにもかかわらず、修学旅行生やインバウンドを含めた観光客の利用は増加している。(陸運)

#### ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数は、「その他（木材・木製品）」などが低下しているものの、「金属製品」「食料品」などが上昇している。

なお、企業からは、中国を取り巻く状況等に起因して生産計画を見直すとの声が聞かれる一方、半導体供給制約の緩和により生産状況が改善しているとの声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、足踏みの状況にある。

#### (主なヒアリング結果)

- 半導体関連の需要が一巡したようで、受注が落ち着きつつある。中国の景気減速を背景に、国内や中国の取引先からは、受注取りやめまでは至らないものの、納品時期の先延ばしを相談されるケースがある。(生産用機械)

- 食料品値上げによる消費者の購買意欲の低下などから生産数量は減少している。 (その他製造)
- EV 向けのリチウムイオン二次電池関連は引き続き需要が旺盛であるものの、電子部材関連の受注は落ち着いている。なお、対中輸出規制の影響で仕向地が中国から米国へ変更となり、規格変更に伴うコストアップとともに納品時期の遅れが一部でみられる。 (生産用機械)
- 今期 (令和 5 年 7 月から令和 6 年 6 月) の生産量については、外食需要は回復しているものの、中国経済の停滞による中国向け輸出の減少などから昨期比横ばいの見込み。 (飲食関係の事業協同組合)
- 大手飲食料品メーカー向けの加工原料は、コロナ禍からの回復途上であるものの、インバウンド消費も回復していないことに加え、猛暑の影響もあり、前四半期と比較して生産量に変化はない。 (食料品)
- 自動車生産における半導体不足の状況がほぼ改善しているようで、国内自動車メーカーからの受注が回復しており、生産ラインはフル稼働となっている。 (輸送機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っており、持ち直しつつある。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和 3 年 4-6 期調査以降 10 期連続の「不足気味」超となっていることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- EV に係る専門人材が不足しており、中途採用を実施するも賃金面で折り合わず、採用に至らない。 (生産用機械)
- 生産部門の現場作業員が足りておらず、入国制限の緩和により、比較的集まりやすくなった外国人技能実習生を採用することで、不足分を補っている。 (その他製造)
- 給与面で待遇の良い同業種等へ移る乗務員が多いため、中途採用で補わざるを得ず、正規職員に占める中途採用者の割合が 3 割以上増加した。 (陸運)
- 「年収の壁」を意識し、短時間での勤務を希望する従業員も多く、シフト編成に苦労している。 (宿泊)
- 不足感はあるものの、物価上昇や最低賃金の引き上げによってコストがかさんでいるため、新たな募集は行っておらず、さらに非正規職員については数名削減する必要がある。 (小売)
- 原材料価格や光熱費の高騰などによる収益圧迫で、現在抱えている従業員と新規採用者の両方の賃上げに対応できず、求人を抑える中小企業が増えてきている。人手不足が進みすぎ、未経験者を育てられる状況にないため、経験者や有資格者に絞って求人している企業もみられる。  
また、「ゼロゼロ融資」の返済開始、雇用調整助成金の特例給付が 3 月末に終了したことなどによる影響で、事業所閉鎖や人員削減を行う企業も散見される。 (公的機関)

## ■ 設備投資 「5 年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和 5 年 7~9 月期

5 年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

## ■ 企業収益 「5 年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和 5 年 7~9 月期

5 年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

## 【その他の項目】

- 住宅建設 新設住宅着工戸数で見ると、持家・貸家・分譲において前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。
  
- 公共事業 前払金保証請負金額(累計)で見ると、国、独立行政法人、県、市町村で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。
  
- 企業倒産 倒産件数は足下で前年を上回っている。負債総額は前年を上回っている。
  
- 企業の景況感 法人企業景気予測調査(令和5年7~9月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについては、5年10~12月期は「上昇」超、6年1~3月期は「上昇」と「下降」が均衡する見通しとなっている。

[連絡・問い合わせ先]

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課  
TEL 0742-27-3162 (直通)